

「エルサレムでの最後の日々」

(受難週：日・月・火)

受難週一 ①

マルコの福音書 11:1～12:12
(p90)

「キリストは罪を犯したことがなく、その口には欺きもなかった。」(1ペテロ2:22)

肉体を持つ人間として地上に生まれて下さった主イエスの使命は、行いだけではなく、言葉においても全く罪のない完全な方でありながら、十字架に架けられること。父なる神に、全ての人の罪を負った大罪人として捨てられ、罰を受けさせられること。3日目にその神によって復活することである。全ての人の罪を赦す、神の唯一の計画がここにある。

しかし十字架の前の一週間、この壮大な救いの計画を阻止しようと悪魔に動かされた人々は、主イエスにローマ政府に対する反逆罪や、神に対する侮辱罪・不敬罪などの罪を犯させようとした。主イエスはその企みを阻止するだけでなく、^{かえ}反って後に生きる私たちに神に従う道をハッキリ示されたのである。

[聖書の学び]

I、受難週

1、イチジクの木から何を教えようとされたの何でしょう？

(マルコ 11:12～14)
(最盛期ではないが、そろそろ初成りがある時期に来ていたが実がなかった)

①主イエスが一番必要とされる
とき、今しかないその求めに
応えなかった事の教訓。

→ 翌日の朝、イチジクの木は枯れていた。(V20)

②しかし主は、弟子たちに祈りの秘訣を教えられた。

・祈りに応えて下さる父なる神がおられる。(V22)

・信仰をもって祈って求めるものは与えられる。(V24)

→主の求めにその時応えられるように祈るなら、そのようにされる。

土曜日：バタニヤに到着の翌日——バタニヤのマリヤによる油注ぎ

日曜日：エルサレム入城——宮を見回してバタニヤに泊まる

月曜日：エルサレムに行く途中——実のないイチジクにガッカリされる
宮きよめをされた——オリーブ山か？バタニヤ？に泊まる

火曜日：弟子たちに——イチジクについての教訓

祭司長・長老たちと——権威についての話
悔い改めた弟の話
ぶどう園のたとえ
礼服のたとえ

パリサイ人たちに——貢ぎを納める事について質疑応答

サドカイ人たちに——7人の兄弟による復活の質疑応答

律法学者に——律法の大要点

主イエスからの質問(ザデの子について)

群衆と弟子たち——律法学者とパリサイ人の悪を暴かれる
レバタ2つを献げた婦人を褒められた

宮にいる人々に——エルサレム滅亡預言と世の終りの預言
天の御国に入るための3つのたとえ

宮の中にいたとき——ギリシャ人の来訪と一粒の麦のたとえ

水曜日：お休み

木曜日：過越の食事

- ・洗足
- ・聖餐の制定
- ・聖霊の啓示

オリーブ山へ移動——ゲッセマネの苦しみの祈り
イスカリオテのユダの裏切りにより捕縛される

・罪があると分かったら悔い改めよ！——罪の赦しのために、主イエスの贖いがある。(V25)

Ⅱ、主イエスこそ、傷もなく、汚れもない神の子羊

- 1、祭司長たちが罪に定めようと、宮きよめをした権威について質問してきました。主イエスはどのように言われましたか？

(マルコ 11:27～33)

→ 神からの権威と言うと、不敬罪に定められる。

- 2、パリサイ人たちはローマに税金を納める事について質問しました。主イエスはどのように言われましたか？ (マルコ 12:13～17)

→ 反対：ローマ皇帝に対する反逆罪に問われる

→ 賛成：選民ユダヤ民族を裏切る者とされる

} どちらの答えでも
罪に問える

※マルコ 12：16～17 を読みましょう。

私たちは本来誰のもので、どこに返ることがあるべき姿なののでしょうか？

私たちの全ても本来、どなたのものなののでしょうか？

- 3、この世的な真面目さを強調するサドカイ人は、七人の兄弟の妻になった者の事を質問しました。主イエスは何と言われましたか？

→誰かの妻だと言えば、秩序を乱すことや清さに欠けると非難できる。

※マルコ 12：25～27 を読みましょう。

よみがえった姿は天使のようである。（天の御国知る者だからこそ分かる真理）

Ⅲ、ぶどう園のたとえ

(マルコ 12:1～11)

- 1、ぶどう園の主人は収穫を得るためにどうしましたか？

①農夫のところに遣わしたしもべ———ひどい目に合わせ、殺してしまった。

②ひとり息子を遣わした———ひどい目に合わせ、殺して外に投げ捨てた

③見捨てられた石が、礎の石になったとは、どのような意味でしょうか？

* **ディスカッション** （心を開いて互いに話し合ってみましょう）

Q. 今日の学びについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。